



週4日勤務で頑張ってます

百円ショップで就労 「2万点以上の品数を覚えるのはプレッシャーでした」

昨年6月から市内の百円ショップで働いている大石さんは、主に商品陳列の仕事をしています。「店内2万点の品数を覚えるのは、最初プレッシャーだった」と話してくれました。

障害者就業・生活支援センター担当者より、「もうちょっといける、と思った時が危険信号、無理せず頑張ってください」

と助言をもらいました。本人は「いつも限界を超えて頑張ってしまう」と、振り返ります。

慈照園担当者は「今は自立にむけて体を慣らす時、焦らずマイペースで続けてほしい」と見守ります。

大石さんの他に、お寺の草取り、老人ホーム厨房補助等で、5名が就労を頑張っています。

赤い羽根福祉基金助成事業「救護施設における精神障害者の地域移行と自立生活の継続支援に向けた事業」報告

「短期居宅生活訓練事業」

園舎から徒歩5分程にあるアパートを一室賃貸し、昨年11月から訓練を行っています。今までに2名の方が利用し、1名は退園をしました。（現在1名が利用中です。）

施設と環境が異なり、職員の支援が無い場合、みんな「規則正しい生活」に自然と意識を持ち始めます。「食生活を整えたい」等、前向きな感想を聞くことができました。

それぞれに、課題はあるものの健康の維持、就労継続ができたことで、自信に繋がったと、話しています。



慣れない一人部屋、最初は戸惑い、遠慮していましたが、今は退園が待ちきれないです。

「地域サロン事業」

～退園後のアパートはどうやって選びますか～



浜松市あいホールに22人の利用者が集まり、講義を受けました(清風寮利用者含む)

令和2年1月29日 静岡県より住宅確保要配慮者居住支援法人の指定を受けている社会福祉法人天竜厚生会の大杉 友祐さんを講師にお願いし、地域で暮らすためのお役立ち講座を開催しました。

「救護施設入所中から、一人暮らしに向けての支援を受けられること」や、「どんな生活をしたいか」によって、選ぶ部屋も変わってくることを教えていただきました。利用者からは、「退園後のイメージができました」と感想が聞かれました。



赤い羽根
福祉基金

この2事業は「赤い羽根福祉基金」を利用し、運営しています。